JTUC

連合高知

<発行所>連 合 高 知
日本労働組合総連合会高知県連合会
〒780-0870 高知市本町４丁目1-32
こうち勤労センター内
TEL（088）824-5111
FAX（088）824-3002
<発行責任者>折 田 晃 一
No.117 2018年９月13日

連合高知ホームページ
WWW.rengo-kochi.jp

連合高知フェイスブック

～西日本豪雨「連合高知ボランティア活動」～

【宿毛市への災害復旧ボランティア活動】

2018年７月、数十年に一度の異常な大雨が西日本を襲い、各地で河川の氾濫や土砂崩れなどにより甚大な被害をもたらした。連合高知では、県内３ヵ所（宿毛市・大月町・安芸市）のうち、宿毛市に災害復旧ボランティアを派遣した。

７月13日（金）14名、７月14日（土）18名が参加し、両日とも同じ家の土砂出し作業を行った。

【宇和島市への災害復旧ボランティア活動】

四国で最も被害が大きかった愛媛県（大洲市･西予市･宇和島市）では、ボランティアによる支援･協力が求められる状況にあったことから、連合愛媛から連合四国ブロックに対して、災害復旧ボランティアスタッフの派遣が要請された。これを受けて連合高知では、７月25日（水）～27日（金）、８月１日（水）～ ３日（金）の ６日間で延べ145人が、酷暑かつ断水の続くなか、宇和島市吉田町立間「荒巻地区」において、主に家屋の土砂出し作業を行った。家主や地域の方々から厚い御礼の言葉を頂戴した。

亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

核兵器廃絶と恒久平和の実現を！

＜連合高知女性委員会・青年委員会からの参加者報告を抜粋特集＞

【連合2018平和行動in沖縄】

2018平和行動のスタートして、「2018平和行動in沖縄」が６月23日（土）～24日（日）の日程で開催された。

「2018平和オキナワ集会」には全国から1,100名が集結し、屋良氏による「沖縄基地問題について」の基調講演に続き、平和式典では、「在日米軍基地

の整理・縮小」と「日米地位協定の抜本的見直し」を強く求めると同時に世界の恒久平和の実現に向けて運動を推進していくことを誓い合った。

○青年委員会：岡本　遼 委員長（JP労組）

私は南部戦跡を巡るコースで、糸数アブチラガマ、魂魄之塔、ひめゆりの塔・資料館、平和記念公園・資料館を巡るコースに参加しました。

このピース・フィールドワークでは連合沖縄の青年委員会の方がピースガイドとして案内してくれました。事前に何度も学習会を開催し打ち合わせも重ねたそうで、とてもわかりやすく気持ちのこもったガイドをしていただきました。また、沖縄に住んでいる人じゃないとわからない体験や考え方なども話してくださり勉強になりました。

今回の平和行動に参加して、テレビや新聞の報道では知ることができない沖縄の人たちの声が聴けて貴重な経験になりました。私ができることは限られているとは思いますが、この経験を無駄にしないように組合活動に活かしていければと思います。

○青年委員会：小田　純 副委員長（紙パ連合）

米軍基地コースに参加しました。連合沖縄青年委員会のガイドとともに、瀬嵩の浜（辺野古キャンプシュワブ）→道の駅かでな（嘉手納基地）→チビチリガマ→嘉数高台（普天間基地）の順に視察に行きました。米軍飛行場の騒音やオスプレイの墜落、ヘリなどからの落下物などの米軍基地問題や沖縄戦の激しさ、戦争によって起こる悲劇などを学びました。

今の日本は平和ですのでこれからもずっと続いていければ良いと思います。

○女性委員会：西川亜由美 幹事
（自治労・競輪競馬労組）

今回、初めて沖縄平和行動に参加させていただき、沖縄戦の悲惨さ、米軍基地を抱える沖縄県民の負担の重さや深刻さを改めて学びました。特に、誰のものか分からない遺骨を集めて石碑を建てたという魂魄の塔を見学したときは大変胸が痛くなりました。私たちは、今後も世界平和の実現に向けて、平和運動を続けていかなければならないと思いました。

【連合2018平和行動in広島】

太平洋戦争終結直前の1945年８月６日、米軍による原子爆弾が広島に投下され14万人の尊い命が奪われました。人類史上初めて原爆が投下された広島の地で悲劇が二度と繰り返されないよう訴えます。

○女性委員会：竹内優子 サブ幹事（高知ユニオン）

14万人余りの尊い命が一瞬にして奪われたあの日から、73年が経ちました。1945年８月６日、原子爆弾が投下され、広島は一瞬にして焼け野原となりました。今もなお放射能被障害に苦しんでいる人たちがいます。それにもかかわらず、核兵器は世界中に１万4,450発も存在し、私たち人類はその脅威から解放されていません。唯一の被爆国であるこの国に暮らす者として、核保有国と非核保有国の架け橋となるとともに、戦争・原爆の悲惨さを後世につなげていかなければならないと思いました。

【連合2018平和行動in長崎】

広島に続き1945年８月９日、長崎にも原爆が投下され、７万4,000人が息絶え、７万5,000人余が傷つきました。長崎の地から平和への祈りを込め、二度と核兵器が使われないよう強く訴えていかなければなりません。

○青年委員会：久保田弘伸 幹事（UAゼンセン）

８日連合平和ナガサキ集会での被爆者の訴えでは、深堀さん（当時14歳）の体験談で原爆の恐ろしさ悲惨さは、とても悲痛だった。この体験談は、決して風化されることなく後世に語り次いでいかなくてはならないものだと思いました。

また、「若者からのメッセージ」では高校生平和大使がこれまでの平和活動への取組みが認められ、本年度ノーベル平和賞候補に選ばれたとの紹介もありました。そのほか基調講演・平和アピールなどもあり、集会のフィナーレは「For The Peace of World」を合唱しました。

９日は、原爆犠牲者慰霊平和祈念式典が行われ、安倍首相をはじめ米露など核保有国を含む71カ国の代表のほか、初となるグテレス国連事務総長の出席があり、平和行動へのさらなる前進につながったのではと感じました。

ピースウォークでは、地元連合長崎の青年委員会の方たちのガイドで平和公園および周辺を案内してくれました。夜の万灯流しをする会場について

は、当時爆風と熱線を浴び、やけどを負った多くの被爆者が水を求めて集まり亡くなった浦上川で行われ、参加者がそれぞれの灯籠に「核兵器のない平和な世界へ」の願いを込めたメッセージを書き込み、原爆犠牲者のご冥福を祈り流しました。

最後に連合の平和行動への参加は、平和であるということの大切さを知ることができ、恒久平和の実現に向けた取組みを学ぶ良い機会となりました。